

中世文書頻出異体字・略字一覧

異体字というのは使用された当時（多くは平安〜鎌倉、室町時代）に正字（漢字の正しい字体）から一部を簡略化して作り出された、いわば漢字のバリエーションの一つです。

漢字は、幹・枝・葉の三要素からなりますが、葉の部分を切り捨て枝を変化させて作り出されています。当時の古文書から複数使用例が見つければ異体字と認定されますが、一例だけの場合には、誤りか意図的なものか異体字かは、判別しにくいのです。

そのような状況をふまえ、実際に文書を読んでいく中で、判読しづらい文字、特に漢字がある場合、次のような判読方法があります。

判読しうる「偏（へん）」や「旁（つくり）」から、あるいは判読しうる画数から、この一覧を参照し、書かれている文字（漢字）を判読する手がかりにすることができず。

また、判読するには正字と同じく、へんやつくりの崩しを見定めて「崩し字辞典」の部首索引から見比べてみるようになります。

なお、ひらがなとして読む「変体仮名」については、変体仮名一覧（別添）や変体仮名辞典を調べていきます。

仮名は、漢字をもとに作られた文字なので、もともなった漢字を探してみましょう。

これらの方法を組み合わせ、手がかりにして、判読していくのです。

米 (采)

畚(番) 釋(釋)

至圣(至)

徑(徑) 經(經) 輕(輕)

頸(頸)

々(出)

纒(纒)

諂(讒)

之 (乚)

建(建) 迂(廷)

又(易) 州

交(森)

洩(澁)

之 (乚)

繼(繼) 近(匠) 迥(匠) 難

撮(攝)

关关(莫)

難(難) 咲(嘆) 歎(歎)

浅(浅)

浅(浅) 錢(錢)

〔偏旁の置き換え〕

叟(叟)

役(役)

味(和)

焮(秋)

尋(時)

𠂔(𠂔)

𠂔(虎) 處(處)

𠂔(桃)

𠂔(魂)

𠂔(腰)

𠂔(谷)

𠂔(欲)

羣(群)

朞(期)

衆(海)

麦(麦)

凌(凌) 綾(綾)

身(耳)

𠂔(耽) 𠂔(職)

〔二画―五画〕

𠂔(𠂔)

俊(俊) 駿(駿)

𠂔(乙)

𠂔(曆・歷)

三木(参議)

𠂔(葉)

𠂔(葉) 𠂔(牒)

𠂔(𠂔) 𠂔(𠂔)

溝(溝) 搆(搆) 構(構)

摩・應

斗(計) 𠂇(等) 止(止)
 三・𠂇(四) 𠂇(頭) 巳(亡)
 六(録・祿) 壬(閏) 戈(歲)
 卅(世) 乞(乞) 与(與)
 𠂇(汀(灌頂)) 斤(片) 収・𠂇(段)
 尺(釋) 无(無) 𠂇(也)
 𠂇(卒) 𠂇(罔) 𠂇(樂)
 𠂇(互) 𠂇(同) 𠂇(爾)
 𠂇(允) 𠂇(歟) 𠂇(千)
 𠂇(本) 𠂇(白・舊) 𠂇(夏)
 𠂇(召) 𠂇(去) 𠂇(因)
 𠂇(畢) 𠂇(氏) 𠂇(色)

〔六画―八画〕

𠂇(失) 𠂇(世) 𠂇(考)
 𠂇(癸) 𠂇(老) 𠂇(再)
 𠂇(尼) 𠂇(弓(卷)) 𠂇(永)
 𠂇(足) 𠂇(外(叔))
 𠂇(天) 𠂇(旨・台・旨(旨))
 𠂇(兆) 𠂇(異(異)) 𠂇(衆)
 𠂇(執(執)) 𠂇(死(充))
 𠂇(所) 𠂇(每(無))
 𠂇(血) 𠂇(災(災)) 𠂇(弃(棄))
 𠂇(喜) 𠂇(事) 𠂇(藥)
 𠂇(時) 𠂇(紙) 𠂇(每(每))
 𠂇(沈) 𠂇(遷) 𠂇(弘)
 𠂇(夷) 𠂇(亦) 𠂇(吳)
 𠂇(興) 𠂇(判) 𠂇(堯)

苧・苧(刈) 草(革) 欵(歟)
昏(書)

〔九画—十一画〕

羨・羨・羨(美) 恚・恚(悉)
坐(聖) 桑(桑) 疋(岡) 咲(笑)
竿・竿(算) 制(制) 漆(漆)
坐・坐(坐) 唐・唐(唐) 益・尽(盡)
害・害(害) 皈(歸) 逃(逃)
料(料) 叅(參) 烈(列)
戾(戾) 衆(衆) 斂・斂(殺)
惡(惡) 肩(負) 脩・脩(備)
脩・脩(脩) 埜(野) 淵(淵)

取(最) 庭(庭) 遼(違)
圖(圖) 憑・憑(憑)

〔十二画以上〕

鬲(鬲) 對(剛) 兼・兼(兼)
對・對(對) 後(後) 須(須)
躰(體・體) 梶(杉) 置・置(置)
寬(寬) 裡(裏) 解・解(解)
詔(詔・詔) 鄉(卿・鄉) 筭(算)
兼(承) 關・關(關) 隱・隱(隱)
雜・雜・雜・雜(雖) 務(務)
雜(雜) 憲(憲) 賞(賞)
穩・穩(穩) 頤・頤(頤)

以上、主として太田晶二郎氏『異體字一隅』(角川書店「郷土研究講座」第七卷所収)による。